

第 1 回検討会における主なご意見

1. e ラーニングを導入する上での課題と方策

(1) 効果的な e ラーニングシステムの構築について

- 学習の質を担保するためには、受講生の成績もデータとして残り、教員が指導に活用できる LMS（ラーニングマネジメントシステム）が必要。
- 専任教員養成においては、理論と実践を結びつけた教育が重要である。理論と実践を結びつけるため、通常は、受講生同士がグループで、または 2 人で討論やシミュレーションを行っている。

e ラーニングでは対面して討論する方法の代わりに BBS（電子掲示板）システムを活用し「つぶやき」を行っているが、全く異なる視点からの意見交換により、受講生の視野を広げることができる。

(2) 学習効果の高いコンテンツの制作

- 講義形式のコンテンツの作り方はイメージがつくが、専任教員養成講習会の場合、演習の内容が問題となる。演習の内容次第でコンテンツの作り方が異なる。
- e ラーニングのコンテンツ制作担当者は「教員が実現したい授業」となるように、コンテンツ提供の形態などについて努力する必要がある。
- 講師が画面中央で解説するコンテンツは、内容を捉えにくい。
- 音声や画面の中での講師の位置などもコンテンツのわかりやすさの要因である。
- 学習効果を高めるためには、随時授業評価に基づく教育内容の改善が必要だが、e ラーニングの場合は、コンテンツ作成まで多くの人が関わるため、授業評価を共有して頻繁にコンテンツを改良するのは難しいのではないか。
- コンテンツ改良の際、一画面が講師とパワーポイントで構成されるコンテンツは映像を全て撮り直すことが必要となるが、画面がパワーポイントのみの場合は、比較的修正がしやすい。

(3) 受講者の意欲を高めるサポート体制の必要性

- 早稲田大学では e ラーニングで学ぶ学生を支援するため、修士以上の学位を取得している教育コーチを配置している。教育コーチは教員の補佐的役割を期待されており、メールなどで学生の質問に答えている。また、教員は受講者のモチベーションを上げたり、レポートに対する解説を行うなどの役割を果たしている。

- eラーニングを適用した場合、創造的な教育ができる教員を養成するためには、受講生をどのようにサポートすればよいか検討する必要があるのではないか。
- eラーニングは、受講者が能動的でモチベーションが高くないとうまくいかない。受講者が能動的に学習し、クリエイティブな思考ができる教育が必要ではないか。
- eラーニングは自己管理しなければ学習時間が保障されない。受講生が職務を行いながら受講できるかどうか問題。

2. eラーニングを適用する教育内容について

- eラーニングは「教育分野」に導入可能ではないか。「専門分野」については、受講生同士が話し合いながら学ぶことが学習効果をあげる。

3. eラーニングと集合研修の組合せ方について

- eラーニングによる演習も可能であるが、スクーリングを行うとか、オンデマンド授業と対面授業を組合せる工夫が大切である。
- 専任教員養成講習会の基本の考え方として、eラーニングのみならず集合研修も必要。eラーニングと集合研修の組合せ方も課題である。

4. 受講期間と教育効果からみた講習会の実施方法について

- 受講生が十分な学習時間が確保できない中で、複数年に渡る履修も可能とするのかという判断も必要。
- 学習の順序性や、演習を通してさらに自分の課題を見つけることができるような教育の方法について検討が必要である。

5. その他

- 行政資料、白書以外の著作物や資料等をインターネットを通じて送信する場合は、「公衆送信権」に抵触するため、利用の許諾が必要となる。許諾の費用が巨額になる場合がある。